

## シトロエン、WRC 第 11 戦トルコで 2015 年以来の 1-2 フィニッシュ

2019 年の世界ラリー選手権 (WRC) にシトロエン C3 WRC で参戦するシトロエン・レーシングは、9 月 12 日～15 日にかけて開催された第 11 戦のラリートルコで、今シーズン 3 度目となる勝利を獲得しました。セバスチャン・オジエ/ジュリアン・イングラシア組が盤石の強さを見せ優勝、2 位にはエサペッカ・ラッピ/ヤンネ・フェルム組が入り、シトロエンにとっては、2015 年のアルゼンチン以来となる 1-2 フィニッシュを達成。後続を 1 分以上引き離すスピードで、シトロエン C3 WRC の走行性能の高さを証明しました。



### ラリーの展開

2019 年シーズンの WRC はチャンピオン争いも佳境を迎える後半戦に突入しています。第 11 戦の舞台となるのは、荒れたグラベル (未舗装路) が特徴のトルコ。地中海に面した南部のリゾート都市マルマリスを拠点に、4 日間にわたり熾烈な争いが繰り広げられることが予想されました。シトロエン・レーシングはこのラリーに備え、ギリシャで事前テストを敢行。ふたりのドライバーは精力的に走り込みを行い、大きな手応えを得ることに成功しました。かつて難攻不落とも評されたアクロポリスラリーで使われていたコースを使用し、技術スタッフは 4 日間をかけてダンパーシステムに関する作業を行うなど、チームは万全の準備をしてトルコへと向かいました。

ラリーは 12 日 (木) の夜、マルマリスの市街地ステージでスタートしました。直線とランナバウトを組み合わせ、さらにタイトターンやシケイン、ジャンプ台も設けられた特設コースには多くのギャラリーがあつまりました。ここでオジエは 4 番手、ラッピは 6 番手タイムを記録。本格的なスペシャルステージが始まる翌日に備え、2 台のシトロエン C3 WRC は慎重な出足でラリーをスタートしました。

競技 2 日目の 13 日 (金)、このラリー最長となる 38.15km の SS3 を勝負どころと踏んだラッピは、渾身のアタックで総合首位の座につくことに成功します。好調のラッピに続き、オジエも午後には 2 番手にまで浮上、シトロエンは競技 2 日目を終えて首位ラッピ、2 番手オジエという 1-2 体制を構築し、ラリーをリードしていきます。続く 14 日 (土) の競技 3 日目、この日最初の SS でオジエは一気にスパートをかけ、17.7 秒あったラッピとの差を一気に 1 秒にまで短縮します。一方のラッピも負けじとベストタイムをマークし、一時はオジエとの差を 10 秒にまで拡大しますが、SS12 で痛恨のタイムロス。これでオジエが逆転し、ラッピを従え総合首位に立つこととなりました。

競技最終日の 15 日 (日)、勝利へ向けて走るオジエは、ボーナスポイントの与えられる最終 SS で 3 番手タイムをマーク。今シーズン 3 度目、通算 48 回目の勝利を獲得してみせました。ラッピもリスクを避けたドライビングで 2 位となり、シトロエンは 3 位以降に 1 分以上の差をつける快走で、2015 年以來となる 1-2 フィニッシュを達成しました。

次戦は、英国で開催される伝統の一戦、ラリーGB (10 月 3 日～6 日) です。天候と路面の変化にいかに対応するかが勝敗の分かれ目と言えるでしょう。シトロエン C3 WRC のさらなる活躍にご期待ください。

## チームコメント

### ■ピエール・ビュダール（シトロエン・レーシング代表）

「今回の成果を、心から誇らしく思います！ 文句なしの内容でした。前戦ドイツは残念な結果でしたが、今回はチーム一丸となって本領を発揮し、勢いを取り戻すことができました。全員が必死に取り組み、シーズン屈指のラフなグラベルステージでも、頑強で非常に速い走りのできる C3 WRC を完成させました。クルーたちも、まさにパーフェクトな活躍してくれました。ラッピとフェルムは、コンディションが厳しいなかでも非常に手堅い走りを見せました。そしてオジエとイングラシアは、絶妙なタイヤマネージメントで他の追従を許さない能力を発揮しました。真のチャンピオンとなる鍵は、『攻める機会を理解していること』にあります。何年もの間、彼らは絶対に諦めないクルーとしても知られてきましたが、この週末は、あらためてそのことに気づかされました！」



### ■セバスチャン・オジエ

「チャンピオン争いに復帰するために、このラリーは絶対に勝たなくてはなりませんでした。今回、チームに勝利を持ち帰ることができて本当にうれしく思います。今回のように非常にラフなラリーでは、想定外の出来事も起こり得ると思っていましたが、賢明なアプローチで挑むことでトラブルを避け切ることができました。シーズンも終盤に向かっていくなか、この勝利は自分たちを大きく後押ししてくれるものになると確信しています。もちろん、これから先も必死で改良を続けなくてはならないことは、チーム全員が分かっています。いまは今回の勝利を味わい、明日からまた作業を続けます」

### ■エサベッカ・ラッピ

「本当に厳しいラリーでしたが、今回自分が見せたパフォーマンスには、もちろん満足のいく思いです。最初の2日間はとてもいい内容にすることができ、セバスチャンと同じようなペースを見せることができました。彼に迫る走りをするのは、簡単にできることではありません。ラリー後半は、完走してできる限りセバスチャンたちを援護することでした。私たちの C3 WRC は、今回はパーフェクトでした。どんなトラブルもありませんでしたし、そのことが、この素晴らしいリザルトを決めた鍵となりました」

## 世界ラリー選手権（WRC） 第11戦トルコ 最終結果

順位	ドライバー/コ・ドライバー	車両	タイム/差
1.	セバスチャン・オジエ/ジュリアン・イングラシア 	シトロエン C3 WRC	3:50:12.1
2.	エサベッカ・ラッピ/ヤンネ・フェルム 	シトロエン C3 WRC	+34.7
3.	アンドレアス・ミケルセン/アンデルス・ヤーゲル	ヒュンダイ i20 クーペ WRC	+1:04.5
4.	テーム・スニネン/ヤルモ・レーティネン	フォード・フィエスタ WRC	+1:35.1
5.	ダニ・ソルド/カルロス・デル・パリオ	ヒュンダイ i20 クーペ WRC	+2:25.9
6.	ヤリ・マティ・ラトバラ/ミーカ・アンティラ	トヨタ・ヤリス WRC	+2:59.1
7.	クリス・ミーク/セバスチャン・マーシャル	トヨタ・ヤリス WRC	+3:53.3
8.	ティエリー・ヌービル/ニコラ・ジルスール	ヒュンダイ i20 クーペ WRC	+5:34.8
9.	ポンタス・ティデマンド/オーラ・フローネ	フォード・フィエスタ WRC	+7:22.9
10.	ガス・グリーンスマス/エリオット・エドモンソン	フォード・フィエスタ R5	+15:18.7

## WRC マニュファクチャラーズ選手権 ポイントスタンディングス

順位	チーム	ポイント
1.	ヒュンダイ・シェル・モビス・ワールドラリーチーム	314
2.	トヨタ・ガズレーシング・ワールドラリーチーム	295
3.	シトロエン・トタル・ワールドラリーチーム	259
4.	Mスポーツ・フォード・ワールドラリーチーム	184